



第4回

北海道高等学校選抜登山大会

2025年8月23日(土)・24日(日)

室蘭岳 (911m) ・カムイヌプリ (750m)



主 催 北海道山岳・スポーツクライミング連盟
共 催 北海道高等学校体育連盟
事務局校 北海道室蘭栄高等学校

開閉会式次第

開会式

開式の言葉

大会委員長挨拶・諸注意

各隊長紹介

各学校自己紹介

大会役員紹介

閉式の言葉

閉会式

開式の言葉

大会委員長挨拶・講評

各隊長講評

閉式の言葉

<大会役員>

大会長	北海道山岳・スポーツライミング連盟会長	石井昭彦
副大会長	北海道高体連登山専門部長・北海道室蘭栄高等学校長	松田素寛
大会委員長	北海道高体連登山専門部専門委員長(旭川工業高等学校)	三戸涉
A 隊隊長	市立函館高等学校	宮澤宜法
B 隊隊長	北海道室蘭栄高等学校	石丸高志

審査員及びサポート

水野 秀人 (帯広大谷)	飯田 一三 (旭川東)	三宅 武寿 (旭川東)
松永 直樹 (函ラサル)	丹野 裕之 (旭川西)	竹内 颯汰 (釧路湖陵)
石田光師郎 (釧路湖陵)	玉森 一 (釧路湖陵)	内海 健一 (旭川工業)
細野 護 (旭川工業)	木村 宣幸 (北広島)	新居 大輔 (北広島)
業天真由美 (富良野)	塩谷 和樹 (市立函館)	相馬 大悟 (小樽潮陵)
中新井 尊 (北見北斗)	小野 泰章 (北見北斗)	梅川 悟史 (岩見沢東)
齊藤 豊一 (岩見沢東)	日向 真樹 (室蘭栄)	柴田 一 (室蘭栄)
山納 秀俊 (室蘭栄)	藤原 幸二 (苫小牧商業)	小池 圭太 (滝川工業)

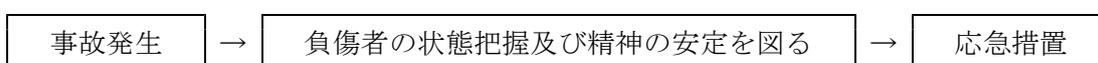
大会本部 三戸 涉 (室蘭栄) 山納 秀俊 (室蘭栄)

事務局校 北海道室蘭栄高等学校

<事故対策委員会>

副大会長 松田素寛
大会委員長 三戸 涉
A隊隊長(男子) 宮澤宜法
B隊隊長(女子) 石丸高志
事務局校 山納秀俊
サポート 大会参加校山岳部顧問

<事故発生時の手順>



◎負傷発生に関する方向は正確かつ詳細に行う。

◎負傷者を父母に引き渡すまでは付き添い看護に当たる。

事故対策委員会	
1	110番通報、あるいは救急車の出動要請。または最寄りの病院への搬入。
2	保護者への連絡(日本学校健康会の手続き)
3	関係機関への報告(書類作成)

<関係機関連絡先>

北海道警察札幌方面室蘭警察署	050-0083	室蘭市東町4丁目27-10	0143-46-0110
室蘭警察署中島交番	050-0075	室蘭市中島本町1丁目4-3	0143-44-5319
室蘭消防署	050-0083	室蘭市東町2丁目28-7	0143-43-0119

令和7年度 第4回北海道高等学校選抜登山大会 開催要項

1 主催 北海道山岳・スポーツライミング連盟 北海道高等学校体育連盟

2 共催 北海道高等学校体育連盟登山専門部

3 期日 令和7年8月23日(土)から24日(日)まで

4 会場 室蘭岳(911m)・カムイヌプリ(749m)

5 テーマ 「観天望気」

6 集結地 室蘭岳山麓総合公園 〒050-0052 北海道室蘭市神代町 TEL 0143-43-5600

7 日程

1日目 23日(土)

13:00 受付

13:30 開会式

13:45 顧問打ち合わせ(選手確認、審査)

14:00 ペーパーテスト・天気図審査 ※下敷き持参

14:50 テント設営審査

16:00 炊事開始 審査

16:40 顧問会議、安全対策会議

20:00 就寝

2日目 24日(日) 男女ともサブザック行動

4:00 起床

5:30 登山開始→スキー場→水元沢コース

9:30 カムイヌプリ CP1

11:30 室蘭岳 CP2

11:50 下山開始 西尾根コース

13:00 下山完了・閉会式

13:30 解散

※CP2までチーム行動、その後下山は隊行動

※荒天対策 室蘭岳夏道コース往復

8 参加人数 選手:約70名(男50、女20) 役員:約30名(男25、女5) 計約100名

9 参加資格

- (1) 北海道高体連に加盟している高等学校の生徒。
- (2) 高体連主催大会参加者災害補償制度に加入した者、または加入の意志がある者。
- (3) 年齢は4月2日起算とし18歳未満であること。
- (4) 参加生徒は、健康診断を受け在学する校長が支障ないと判断した者とする。
- (5) その他は、北海道高等学校体育連盟の大会開催基準による。

10 パーティ編成

- (1) 1パーティー選手4名、高校の教員である監督1名。
- (2) 男子パーティーをA隊、女子パーティーをB隊とする。

11 表彰 大会終了後 登山専門部 web ページ等で結果を公表、楯は郵送する。

12 携行品

- (1) 幕営に必要な野営用具・食料・非常食・その他一般用具「全国大会に準ずる」(ピッケル・アイゼンは不要、ストックの使用は好ましくない。)

- (2) 地形図は専門部で用意した「持参用地図」を各校印刷の上、持参すること。
- (3) 時計の高度計機能やGPS機能は使用しないこと。ウェアラブル端末・スマートフォン等の電子機器は大会中使用しないこと。カメラ機能は隊長の指示に従うこと。
- (4) 天気図用紙は「気象協会1号様式」を用意すること。

13 記名様式

- (1) メインザック・サブザック・ザックカバー（使用する場合のみ）の外側中央に、学校名と選手の番号を記入した布A（縦10cm、横14cm程度）をつける。布は参加校で用意する。
- (2) 行動中に着用する帽子の前面に、登山専門部より配付されたゼッケンを縫い付けること。安全ピンの使用は不可。
- (3) テントの張り綱には学校名を記入した布C（縦30cm、横40cm程度）をつける。布は参加校で用意する。
* (1)と(3)は識別しやすく直接記入しても良い。

14 事故対策

- (1) 安全対策委員会を置き、安全登山に万全を期す。
- (2) 緊急を要する場合は、安全対策委員会要領により対策を講ずる。

15 その他

- (1) 出場前に選手に事故が生じた場合のみ、監督会議にて変更し補欠の出場を認める。ただし、参加申込書に記載された2名以外は認めない。
- (2) 本大会の計画書を作成し、受付の際に2部提出すること。
- (3) 健康保険証または健康保険証のコピーを持参すること。
- (4) 各パーティの食事については、すべて各パーティで用意すること。
- (5) 1パーティにつき、テントを1張り用意すること。
- (6) 監督(顧問)の食事についても、すべて各自で用意すること。また、監督(顧問)はテント泊(林間)または車中泊とする。

- 16 参加経費 1チームあたり3,000円、監督(顧問)0円 ※大会当日受付にて現金でお支払いください。
※ゴミは持ち帰りですが、捨てたい場合は大会終了後に管理事務所で300円お支払いください。

★申込方法

専門部より配付する参加申込書に必要事項を入力後下記アドレスに送信してください。原本は開会式当日持参してください。

★申込〆切 令和7年8月1日(金)まで

★申込先 masakihinata@hokkaido-c.ed.jp

北海道高等学校体育連盟登山専門部 事務局 日向真樹
〒050-0083 室蘭市東町3丁目29番5号 北海道室蘭栄高等学校内
TEL 0143-44-3128 Fax 0143-44-3129

<確認事項>

- 1 参加人数については、各学校男女各1パーティのみとします。
(学校の都合で、パーティの人数が3名や5名などはご相談ください。審議します。)
- 2 全道大会の審査基準に基づいて審査を行います。
- 3 参加されるすべての顧問の先生に大会運営のお手伝いをお願いします。審査等もご協力をお願いします。

鷲別岳（室蘭岳）について（学習資料）

鷲別岳 910.9 mは、地元では「室蘭岳」として親しまれているが、国土地理院の地形図では「鷲別岳（室蘭岳）」と記載されている。山頂には一等三角点「鷲別岳」が設置され、「室蘭岳」と彫られた立派な頂上看板が立っている。

「鷲別岳」の名は鷲別川の水源であることに由来するが、「室蘭岳」の呼称はそれより古く、寛政 11 年（1799）の渋江長伯の『東遊奇勝』に「モロラン山」、松浦武四郎の『三航蝦夷全図』（嘉永 7 年（1854））では「モロラン岳」と記載されている他、江戸後期に書かれた多くの絵図、紀行文などに記録が残っている。「モロラン」はアイヌ語の「モルエラニ（mo-ru-e-ran-i）」（小さな・道・そこを・下る・ところ）に由来する。

また、鷲別岳（室蘭岳）の東にはカムイヌプリ 749.8 m（三等三角点「鷲別来馬」）があり、今大会でも登頂する予定であるが、この「カムイヌプリ（kamuy-nupuri）」（カムイ＝神・山）という呼称から、この山はアイヌ民族にとって崇敬の対象であったことがわかる。幌別方面から眺めると、確かに崇高にそびえる成層火山である。

水元沢コースに沿って流れる鷲別川から鷲別岳（室蘭岳）山頂を繋ぐラインは、登別市と室蘭市の境界になっている。

室蘭市の北部には山地や台地が広がっており、中期～後期更新世に活動した火山群が長い時間をかけて浸食されて現在の地形が形成された。山地の南側は尾根線が白鳥台や八丁平などのなだらかな台地を経て市街地付近まで伸びている。一方、山地の北側は急峻に切れ落ちていて岩溝が何本も走り、アルピニズムを志向する上級者のトレーニングエリアとして知られている。

多くの市民に親しまれている夏山の一般ルートは、「夏道コース（南尾根コース）」、「西尾根コース」、「水元沢コース」の3ルートであり、これらは全て南側斜面に付けられている。一方、急峻な北側には「裏沢コース」、「滝沢コース」など、沢登りのルートが拓かれている。他に、山頂から北に伸びる「北尾根コース」もあるのだが、急峻で危険な箇所があるため、山頂からの下り口には「立ち入り禁止」の看板が設置されている。「北尾根コース」は主に沢登りの下山に使われるバリエーションルートという位置づけである。沢登りといえば、富岸川を遡上してカムイヌプリに至る「富岸川右股コース」もおもしろい。滝は全て直登できるが、撤退する場合に備えて、ロープと懸垂下降技術は必須である。また、夏道の一般ルートとしては他に、鷲別岳（室蘭岳）とカムイヌプリを繋ぐ「縦走コース」も拓かれており、この山域は初級から上級までバリエーション豊かな登山エリアとなっている。そのため利用者も多く、鷲別岳（室蘭岳）の入山届から推定される近年の入山者は年間 18,000 人～ 20,000 人とされ、札幌近郊の空沼岳 15,000 人を凌ぐほどであり、北海道の中でも目立って多くの登山者を集めている。また、山頂か

らは太平洋や噴火湾、その彼方に駒ヶ岳や、横津岳から恵山に至る山並みが遠望でき、その景観の素晴らしさや植生の豊かさなどから、鷲別岳（室蘭岳）は「北海道の自然 100 選」や「北海道 100 名山」にも選定されている。

さて、今大会では、鷲別岳（室蘭岳）の山麓に広がる室蘭岳山麓総合公園（通称「だんぱら公園」）から出発し、まず連絡路を通って水元沢コースに入る。登山道は鷲別川に沿って付けられている。水元沢コースは室蘭岳とカムイヌプリ間のコルへ出て、そこから縦走コースを辿ってまずカムイヌプリを目指す。途中、奥カムイヌプリと立木に表示されたピークを通過し、さらに三角点「鷲別来馬」を通過した後に標高 745 m の頂上標識のあるカムイヌプリ山頂広場に到着する。カムイヌプリからは再びコルまで往路を引き返し、コルから鷲別岳（室蘭岳）を目指す。最低コルには「滝沢コース」への標識も見られるが、笹藪に覆われて道は見えない。一般登山者がそちらに下りてしまわないようにあえて笹藪をしていないようだ。ちなみに、「富岸川右股コース」もこの縦走路に出るのだが、そこも同じく、どこなのかわからないうちに通過しているはずだ。コルから鷲別岳（室蘭岳）登頂までの登りがこのコースで一番きつところである。標高差と斜面の特徴を地形図で確認しておくとうい。鷲別岳（室蘭岳）登頂後は西尾根コースを辿り、白鳥湾と白鳥大橋を眺めながら、白鳥ヒュッテを目指して下山する。終盤、ペトル川の清流を渡って一登りすると白鳥ヒュッテだ。近くを流れるペトル川支流の湧水地には水神社が祀られ、周辺には北海道固有種のエゾサンショウウオが生息している。

白鳥ヒュッテは登山や山スキーに利用されている山小屋で、戦前の昭和 6 年（1931）に建てられた初代の「室蘭岳ヒュッテ」が焼失したことから、戦後の昭和 24 年（1949）に 2 代目の小屋として建てられた。木々が葉を落とした晩秋に竣工し、林間越しに白鳥湾が望めたことから「白鳥ヒュッテ」と命名された。この小屋はかつて室蘭市が所有、管理していたが、令和 3 年に白鳥ヒュッテ友の会に譲渡され、現在は友の会が管理運営している。カムイヌプリには「幌別コース」6 合目に 1990 年竣工の「カムイヒュッテ」があり、登別山岳会が管理している。

今回使用する国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図は「鷲別岳」であるが、「室蘭東北部」、「稀府」も用意すると周辺の地形がわかり、山の特徴や現在地の確認がしやすくなるだろう。地形図をしっかり読み込んで、コースと地形を徹底的に頭に入れておこう。

令和7年度 第4回北海道高等学校選抜登山大会

参加高等学校・参加人数一覧

○男子

	ゼッケン	学 校 名	選手	顧問
1	26	帯広大谷高等学校	4	1
2	17	旭川東高校	4	2
3	11	函館ラ・サール高等学校	4	1
4	18	北海道旭川西高等学校	4	2
5	28	北海道釧路湖陵高等学校	4	3
6	20	北海道旭川工業高等学校	4	2
7	6	北海道北広島高等学校	4	2
8	21	北海道富良野高等学校	4	1
9	9	市立函館高等学校	3	1
10	14	北海道小樽潮陵高等学校	3	1
11	22	北海道北見北斗高等学校	4	2
12	16	北海道岩見沢東高等学校	4	2
13	12	北海道室蘭栄高等学校	4	3
合計			50	23

○女子

	ゼッケン	学 校 名	選手
1	17	旭川東高校	4
2	18	北海道旭川西高等学校	2
3	28	北海道釧路湖陵高等学校	2
4	6	北海道北広島高等学校	4
5	14	北海道小樽潮陵高等学校	2
6	22	北海道北見北斗高等学校	4
7	16	北海道岩見沢東高等学校	4
8	12	北海道室蘭栄高等学校	4
			26

選手合計 76名、顧問合計23名、役員4名 合計103名